

登録コード	A3596416	開講年度	2026				
授業科目	専攻研究					担当教員	三谷 壘一
英文授業名	Thesis Research						
単位数	5	講義期間	後期（随時）	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	学部4年生
講義室				授業形態	演習	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					【授業の達成目標】	
	2 0 2 2 Aカリ，2 0 2 1 Aカリ，2 0 2 0 Aカリ，2 0 1 9 Aカリ						
	【2022年度以前加付対象】専門的な知識や研究能力を修得している					・食品機能を明らかにするための応用的な解析技術を身につけることができる。 ・実験データを読み解き、食品成分が細胞内の生理的現象に及ぼす影響を考察できる。	
	【2022年度以前加付対象】地球的な広い国際的視野と同時に現実的な地域の視点に立って問題をとらえ解決する能力を修得している					・自分の研究分野が持続可能社会にどのように貢献するのかを説明できる。	
	2 0 2 6 A3 編（24A），2 0 2 5 A3 編（23A），2 0 2 4 Aカリ，2 0 2 3 Aカリ						
	【2024年度以前加付対象】専門的知識や研究能力を基礎としての確かな情報を収集・理解し、発信できる能力を修得している。					・食品機能を明らかにするための応用的な解析技術を身につけることができる。 ・実験データを読み解き、食品成分が細胞内の生理的現象に及ぼす影響を考察できる。	
	【2024年度以前加付対象】地球的な広い国際的視野と同時に現実的な地域の視点に立って様々な課題をとらえ、解決する能力を修得している。					・自分の研究分野が持続可能社会にどのように貢献するのかを説明できる。	
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	専攻研究Ⅰで習得した技術を用いて専攻研究テーマの課題を遂行する。月に1回研究の進捗度をプレゼンテーション形式で報告する（プログレス）。プログレス時に指導教員から助言や新たな研究計画が提示されます。研究の進捗によって応用的な解析方法も指導します。最後は専攻研究発表会に参加して、自身の研究内容を学内で発表してもらいます。						
(5)授業計画	専攻研究Ⅱ（前期）と専攻研究Ⅲ（後期）で個別の専攻研究テーマを取り組みます。実験ノートは月に2回以上は指導教員に閲覧してもらおう。実験ノートを使って専攻研究の進捗とその後の方針をディスカッションする。最後の授業回到授業アンケートを実施する。						
(6)自主学習の指針	研究テーマに関連する既存の報告を学術論文や専門書を用いて学習してください。こちらで学術論文の紹介をすることをもありますが、大学は自ら学ぶところなので自主的に学習することを推奨します。定期的に、自身のデータを並べて、研究結果を論理的に組み立てる習慣をつけると進んで研究ができるようになってきます。						
(7)成績評価の基準	実験で得られた情報を的確に指導教員に発信できているか、指導教員と助言に基づき実験を進めることができるか、実験ノートは他人が読んでも理解できるように記述されているか、分からないまままで放置せずに積極的に助言を求める行動ができているか、他人の研究紹介について自分の意見を述べるができるかの5点を審査して、総合的に評価する。なお、プログレスを放棄する。実験ノートの閲覧を放棄する（最低閲覧回数を下回る）。専攻研究発表会に参加せず研究成果を発表しない場合は、評価が得られません。						
(8)事前事後学習の内容	研究者倫理を学んでください。そして日頃から情報収集に努め、研究テーマに関連する先行研究や関連分野について自主的に学習すること。分からないことはまず自分で調べる。その後、指導教員と相談し、意見を伺う。自ら到達した意見と教員の意見で議論を行い、よりよい結論へと導く。						
(9)テストやレポートの予定	毎月、研究の進捗状況に関する打合せを行うので必ず参加してください。不参加の場合、評価は得られません。						
(10)成績評価の方法	成績評価の基準の内容から総合して判断します。目安としては、上記の授業の達成目標について、標準的達成レベルにあれば80点、理想的達成レベルにあれば100点とします。 なお、成績評価を得るには同年度の生命機能科学コースの専攻研究論文発表会で自身の研究発表を行うことが必須である。また、食品生命科学分野の修士論文発表会の聴講も必須とする。						
(11)質問、相談への対応および連絡先	随時受け付けます						
(12)履修上の注意	研究結果を社会に還元するは、研究するものの責務です。それと同時に研究結果は研究室の財産であることを自覚して、無闇に研究内容を学外に漏らすなどの行動は謹んでください。研究室では実験に関わる安全上の決め事に従って下さい。						
【教科書】	特になし						
【参考書】	適時紹介します						